

# SHOW HEY シネマーム

★★★

## カラヤン フィルム・コンサート プッチーニ：歌劇《蝶々夫人》

1974年・シネオペラ

配給/  
147分

2009 (平成21) 年1月2日鑑賞

テアトル梅田

### Data

演出：ジャン＝ピエール・ポネル  
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽

団

ウィーン国立歌劇場合唱団

出演：ノミレツラ・フレーニ／ブラ  
シド・ドミンゴ／クリスタ・  
ルードヴィヒ／ロバート・カ  
ーンズ／ミシェル・セネシャ  
ル／マリウス・リントラー／  
ジョルジョ・ステンドロ／  
エリケ・シャリイ

## 👁️👁️ みどころ

プッチーニの名作オペラをはじめてフルに鑑賞。ピンカートンがこんな身勝手な男だったとは！逆に、20世紀初頭の没落士族の娘がこんな深い教育を受けていたとは！「洋妾（ラシャメン）」という言葉の意味を再認識するとともに、1月20日に発足するオバマ新政権との距離感を本音でさぐり、日本独自のスタンスを明確にしなければ。それが、悲しい結末を迎えた蝶々夫人に対して100年後を生きる私たちが報いる正しい道筋では・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■カラヤンの生誕100周年を記念して■□■

ロシアで大活躍していた、大阪市出身の女性指揮者西本智実は現在日本で大人気だが、1955年からヴィルヘルム・フルトヴェングラーの跡を継いでベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を率いたヘルベルト・フォン・カラヤンは、多分指揮者として世界で1番有名な男・・・？不老長寿の薬を夢見た秦の始皇帝がそれを果たせなかったのは当然だが、それはカラヤンだって同じ。私の大学時代、グラムフォンレコードから発売されるカラヤンのレコードは高くてなかなか手が出せなかった記憶が今でも鮮明に残っているのは、やはりあの頃は貧しかったせい・・・？

2008年は、1908年4月5日にカラヤンが誕生してから100周年の記念の年。惜しまれつつ1989年にこの世を去った20世紀を代表する偉大な指揮者カラヤンが、今テアトル梅田のスクリーンに。それが『カラヤン フィルム・コンサート』と題し、2008年～2009年の年末年始にかけて開催されたモーニング&イブニングショー。カラヤンは演奏会での演奏を映像化することに熱心だったらしいが、どうせ観るなら交響曲

の演奏よりオペラの方が・・・そんなわけで実現したのが、プッチーニのオペラ『蝶々夫人』の映像での鑑賞だ。

## ■□■シネオペラとL i v e s p i r eの差は歴然！■□■

同じ2008年から09年の年末年始にかけて梅田ブルク7で上映されたのが、ソニー株式会社が2008年5月から取り組むL i v e s p i r eによる「UKオペラ@C i n e m a」で観た①『ジュリオ・チェーザレ』、②『フィガロの結婚』、③『ヘンゼルとグレーテル』、④『カルメン』の4作品。

ゲキ×シネやシネマ歌舞伎と並ぶL i v e s p i r eによる大迫力の映像に圧倒された私としては、はじめてプッチーニのオペラ『蝶々夫人』を鑑賞できたのは良かったが、L i v e s p i r eの映像と1974年の上演を映画化しただけのシネオペラの映像を比べれば、その差はまさに月とスッポン。もちろん、これはカラヤンの演奏や歌手たちの芝居がダメというわけではないが、やはり両者を比べると、その映像の差は歴然！

## ■□■悲恋物語だと知っていても・・・■□■

プッチーニのオペラ『蝶々夫人』は、長崎を舞台とした没落藩士の令嬢蝶々さんとアメリカ海軍士官ピンカートンとの悲恋物語。もっとはっきり言えば、洋妾（ラシャメン）と呼ばれる「現地妻」となった蝶々さんの純愛がピンカートンに踏みこじられた挙げ句、子供だけ引き取られたものの、蝶々さんは捨てられ自殺してしまうという悲しい物語。

多くの日本人がその悲しい結末は知っているし、第2幕で夫はきっと帰ってくると信じる蝶々さんが海に向かって歌う『ある晴れた日に』のメロディも知っているはず。しかし、実際にこのオペラをきちんと観た人は私を含めてそれほど多くないのでは？

## ■□■なぜ、プッチーニが長崎を舞台にオペラを？■□■

なぜ、イタリア人のプッチーニが『ラ・ボエーム』（1896年）、『トスカ』（1900年）に続いて1904年に初演したそんなオペラをつくったの？それは、アメリカの劇作家デーヴィッド・ベラスコが製作した戯曲『蝶々夫人』の初演をプッチーニがイギリスで観て感動したためらしい。もちろん、プッチーニは日本に来たことはないから、イタリアで資料を集めて創作したわけだから、その理解力には限界があったはず。ちなみに、1902年にパリ万国博覧会に渡歌していた川上貞奴と会ったとも言われているが、そんなプッチーニの日本についての理解の程度はこのオペラを観ればわかるが、あまりに悲しい日本女性の姿とその結末に少しガッカリ？

## ■□■舞台は立派な日本家屋とその庭■□■

冒頭、いきなりピンカートン（ブラシド・ドミンゴ）が障子を突き破って外に飛び出し

てくる映像が登場するのでビックリ。このオペラのメインの舞台は、そんな立派な日本家屋とその庭だ。

ここは結婚幹旋屋のゴロー（ミシェル・セネシャル）の世話で、ピンカートンと蝶々夫人（ミレツラ・フレニ）の新居と定めたものだが、ピンカートンは靴を脱いであがる日本家屋に戸惑い気味。長崎駐在のアメリカ領事シャープレス（ロバート・カーンズ）はそんな2人の結婚を祝福しているが、彼だけは2人の認識の違いをしっかりと理解しているよう。つまり、ピンカートンはあくまで蝶々夫人を現地妻と考えているのに対し、15歳のウブな蝶々夫人は永久の愛を契るものと固く信じているわけだ。

海軍士官のピンカートンが長崎に留まるのはいつまで？そして、アメリカに帰ればいつ日本に戻ってくるの？そんなことに何の疑問も持たない蝶々夫人に、召使いのスズキ（クリスタ・ルードヴィヒ）も心配顔だが、第1幕では蝶々夫人のピンカートンに対する愛の歌が切々と……。また、2人の結婚式で大きな違和感を見せるのが、蝶々夫人が父親からもらった切腹用の刀。これを見たピンカートンがビックリしたのは当然だが……。

## ■宗教問題は？■

『蝶々夫人』の時代設定は1904年、つまり日清戦争が始まる年。そして舞台は長崎だ。徳川幕府がキリスト教を禁止し、キリシタンに対してものすごい弾圧を加えたことは周知の事実。島原の乱（1637年）が起きたのは、この長崎県だ。

蝶々夫人はキリシタンではないが、ピンカートンはもちろんキリスト教信者。そんな2人が結婚するについて宗教問題は発生しないの？ピンカートンと蝶々夫人の結婚式は古式豊かな神前形式（？）で行われ、三々九度の杯が交わされたが、そんな中で明らかになったのが蝶々夫人がキリスト教に改宗したこと。これはピンカートンが強要した結果ではなく、蝶々夫人の自主的判断であり、ピンカートンへの愛情表現の1つだが、そんな蝶々夫人の「変身」に蝶々夫人の親戚たちは大激怒。

こんな風に親戚から総スカンを喰う中でピンカートンとの結婚を強行すれば、ピンカートンがすぐ側で守ってくれるうちはいいが、もしピンカートンがいなくなれば……？

## ■予想どおりの展開の中、ヤマドリが……■

第1幕は愛の二重唱『可愛がってくださいね』で終わるが、第2幕冒頭はピンカートンがアメリカに帰国し、蝶々夫人は1人で彼の帰りを待っている状態。結婚式から既に3年が経ったらしい。

ここで明らかになるのが、ピンカートンの不誠実さと心配したとおりの展開になったと心を痛めるシャープレス領事の誠実さ。つまり、シャープレス領事に届いたピンカートンからの手紙には、アメリカ人女性と結婚したことが述べられ、その旨を蝶々夫人に伝えてくれと書かれていたのだった。

イヤイヤながらそんな役を果たさなければならないシャープレス領事が蝶々夫人の家を訪れ、ピンカートンから手紙が届いたことを知らせると、蝶々夫人は大喜び。この天真爛漫さ(?)にはシャープレス領事もお手上げ状態で、なかなか本題を切り出せないでいるところに登場するのが、いかにも異国情緒タップリのヤマドリ公爵(ジョルジョ・ステンドロ)だ。彼は結婚斡旋屋ゴローの紹介で、日本の習慣では既にピンカートンに離婚されたはずの蝶々夫人に結婚を申し込んでいる大富豪。スクリーン上でみる限り、ヤマドリ公は本心で蝶々夫人に惚れているようだから、誰が考えてもこりゃいい話。そう考えたシャープレス領事も蝶々夫人にその話に乗るように勧めたが、蝶々夫人はこれに激怒するから、シャープレス領事も施す術がない。

さあ、にっちもさっちもいかない状況下、第3幕はどんな展開に?

## ■□■アブラハム・リンカーン号が帰還したが・・・■□■

第2幕のラストでは、ピンカートンが乗るアブラハム・リンカーン号が港に到着したことを告げる礼砲が聞こえてくるから蝶々は大喜び。家に戻ってくるピンカートンを歓迎するべく蝶々夫人も子供も正装して待っていたが、結局夜が過ぎ、夜中になってもピンカートンは戻ってこなかった。さて、これはどうしたこと・・・?

蝶々夫人は一睡もしなかったが、朝になって起き出したスズキが庭で迎えたピンカートンとシャープレス領事から聞かされた話は驚愕すべきもの。つまりピンカートンは既にアメリカ人女性ケートと結婚しており、今回妻と一緒に来日しているというわけだ。

弁護士の視点でいうと、ここで必要なのはじっくり時間をかけた当事者間の話し合い。つまり、まずピンカートンが自分の行動を説明し、場合によれば謝罪し、蝶々夫人の気持ちを整理させることだ。ところが、イザとなるとダメなのが男。外形上は屈強な軍人さんのピンカートンだが、その心が軟弱だったことは、そんな説明責任すら放棄し、スズキに万事おまかせとしたことによって明らかだ。スズキが蝶々夫人に伝えるべきは、子供を引き渡せばピンカートンとケートがその子供を育てるというもの。弁護士の視点でみれば、これは妻の慰謝料請求権も子供の養育権も子供の養育費請求権も認めない、全く理不尽なものだが、20世紀初頭の没落士族の娘が受けていた教育は潔さを尊ぶこと。したがって、そんな境遇に陥ったところで泣き叫んだりしてはダメ。そんな時こそ余計に毅然とし、自分の決断を示すことが大切ということだ。

さあ、ここで下した蝶々夫人の決断とは?それは、100年後の日本女性のそれとは全く違うもの・・・。

## ■□■あなたは、こんな結末に納得できる?■□■

プッチーニのオペラ『蝶々夫人』の悲しい結末に大きな役割を果たすのが、父親から頂いた切腹用の刀。つまり蝶々夫人は、ピンカートンとピンカートン夫人ケートからの申し

出をすべて潔く受け入れ、子供を引き渡した後、1人仏壇の前に座り、女ながらも喉を一突きして、見事自害するわけだ。

悲しい結末ながら、これにて一件落着。ピンカートン側にとってはそういうことだが、日本人のあなたはこんな結末に納得できる？

鑑賞後の私はこんなストーリー仕立てにしたブッチーニとあまりにも身勝手な海軍士官ピンカートンに無性に腹が立ったが、この感情って一体全体ナニ・・・？

2009（平成21）年1月19日記